

アイハラで印刷している時計の針の見本と、文字盤や針の印刷を手掛けているG-SHOCK。極小の部品に、同社の巧みな印刷技術が光る。

## 技術、信頼を誇りに、 次のステップへ

「印刷」といえば、文字や写真、絵などを紙に刷るもの。そう考える人は多いだろう。横手市の「有限会社アイハラ」が手掛けるのは、紙以外の素材への印刷。素材の種類、大きさ、形はさまざま。球面でも凸凹でも、腕時計の針のような小さなものでも対応可能。幅広い依頼に応える精密印刷技術を持つ。

### ±0.02mm以内の印刷技術

平面、曲面、球面に印刷ができるシルクスクリーン印刷、シリコンパッドを使ってインクをさまざまな素材や凹凸面に転写するパッド印刷、ホットスタンプ（箔押し）を得意とする「アイハラ」。プラスチック成形品、透明板、ガラス、アクリル、ゴム、金属等幅広い素材に対応しながら、主に工業製品の印刷・加飾を行っている。

取引先企業の業種は多岐にわたり、電機製品部品、精密機械部品、携帯電話関連部品、自動車関連部品、医療機器部品、化粧品容器など、さまざまな物への印刷依頼が全国から寄せられる。中でも主力は、腕時計の部品の印刷。例えば、G-SHOCKの文字盤や針は、同社で印刷しカシオに納めた後、組み立てられ完成する。

アイハラの高花工場を訪ねると、1人1台ずつ印刷機に向かい合うようにして作業が進められていた。その手

元を見ると、慣れた様子でスピーディーにインクを乗せていく。0.5mm四方の時計の針など、極めて小さな部品にもピンセットを使い手作業で色を入れる。

製品によっては、1つ仕上げるまで印刷を何工程も繰り返す。例えば、現在請け負っている時計の文字盤は18工程、スマートフォンの外装（ボディ）は12工程。1工程でも失敗したらそれまでの全ての作業が無駄になってしまうという。各工程を職人たちがリレーしながら、慎重かつ丁寧に作業を進めている。

たくさんの機械が並んでいるが、作業はオートメーションでも一度に大量に印刷する流れでもない。「1つ1つ、人の手で印刷していく。スタッフ各自の技術の高さが当社の強み」と相原伸一社長は胸を張る。

時には、同業他社が断る複雑で難易度の高い依頼が持ち込まれることもある。細かな作業に定評があり、

印刷位置精度±0.02mm以内の要求に応えられる同社の存在は、口コミや紹介でメーカーに広まっている。

### 流行の波との戦い

1980年にスタッフ4～5人でスタート。「納期」「品質」「コスト」を厳しく追求する姿勢が信頼を得て、次々に新規取引先を開拓していった。

相原社長は、大手生命保険会社に勤務の後、2006年に帰郷して家業に就いた。「印刷業は未知の世界。始めは用語を覚えるだけでも苦労した」と振り返るが、前職で培った営業力を活かして取引先を増やし、15年に代表取締役就任した。

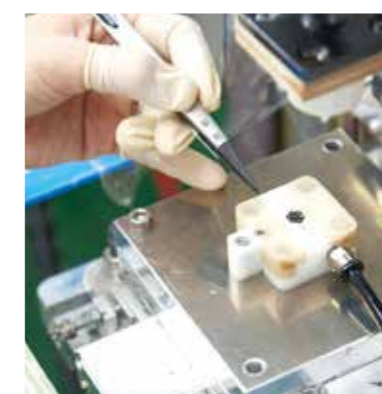
同社の主力製品の多くはライフサイクルが短く、売り上げは流行に左右されやすい。「腕時計、携帯電話、デジタルカメラ…。これらはブームになると一気に仕事が入るが、早いものだと2カ月で勢いを失うモデルもある。受注の波が激しく、作業内容もどんどん変わっていく。だから常に新たな取引先を求めている状態」。現在まで販路開拓は、既存の取引先からの紹介や口コミが大半だ。「ありがたいことに父が築いた信頼もあって『アイハラさんならできる』と声をかけて頂く機会が多い。し

かし、それとは別に、流行に左右されない安定した受注を確保することが課題。当社が誇る印刷・加飾の技術を生かして積極的に提案を行っていきたい」と方針を語る。

### 信頼できる体制で営業・開発

現場スタッフは殆どが女性。「細かい作業を支えてくれているのは彼女たち。複雑で難しい仕事でも丁寧に美しく仕上げてくれる」。子育て中のスタッフも多いが、子供の病気や学校行事などによる欠勤には、工場内で力を合わせて柔軟に対応。産休・育休の後、現場に復帰する割合も高い。さらに、生産管理を任せられる若手社員も育ちつつある。「私が営業に出ても安心して仕事を任せられる体制」と力強く話す様子に、現場スタッフへの信頼がにじむ。

ここ数年は、技術開発にも力を入れる。透明なポリカーボネート製の板に鏡面塗装を施した、軽量で衝撃に強く、製造コストが割安な鏡「アイハライトミラー」を14年に開発。「これを機に自動車産業などの新規分野に参入したい」と意欲を語る。



- A 工場内は製品ごとに作業セッションが分かれている。写真は、時計の針を担当しているセッション。
- B パッド印刷の作業。凹版のプレートにインクを流し込み、シリコンパッドに一次転写。インクが付いたパッドを製品に押し、二次転写する。
- C 小さな部品への印刷はピンセットを使って作業する。
- D ルーペを使って確認しながらの作業。
- E 人気ファッションブランドモデルのヘッドホンの印刷も手掛けた。

### 有限会社 アイハラ

【本社・高花工場】〒013-0205 横手市雄物川町今宿字高花9-1  
TEL&FAX. 0182-23-1101  
【事務所】〒013-0205 横手市雄物川町今宿字下谷地54  
TEL. 0182-22-5434

- 設立/昭和55年
- 資本金/300万円
- 従業員数/43人
- 事業内容/平面、曲面、球面のシルクスクリーン印刷、パッド印刷・ホットスタンプ・部品ASSY(携帯電話、LCDパネル)

※ 経営探訪は、センター利用企業を掲載しています。

